



のかけ橋

A bridge of dream

作曲家  
鹿児島国際大学・同大学院 教授

く ぼ た だ し  
久保 禎 さん

5歳のときにピアノを始めて、  
当時は音楽を習っている男の子は  
少なかったのですが、ピアノが好  
きだったこともあり、コツコツと  
続けていました。中学生になると  
空前のバンドブームが起こり、私  
もバンドを組んで、オリジナル曲  
を作曲していました。

作曲家を志したのは、高校生の  
時です。本格的な作曲を学ぶため  
に東京学芸大学に入学してから  
は、音楽理論を学びながら作曲活  
動を始め、在学中に「日仏現代音  
楽作曲コンクール」で特別賞を受  
賞。そのまま大学院を修了すると、  
鹿児島短期大学（現在の鹿児島国  
際大学）に講師として就職を決め  
ました。

大学に勤めてからは、学生たち  
に作曲や音楽理論、楽曲分析など  
を教えながら音楽研究や論文の執  
筆、作曲活動に邁進。平成15年  
は、在外研修として約1年間ベル  
ギー王立ブリュッセル音楽院で作  
曲について学びを深めました。  
「自分らしい、日本らしい音楽を  
作ってはどうか」とアドバイスさ  
れたことです。そこから、より積  
極的に日本の民謡や故郷をテーマ  
に作曲するようになりました。国  
内外の演奏家や音楽祭から作曲を  
依頼されることも多いのですが、  
外国で公演した方からは「久保さ  
んの曲を演奏すると外国のお客さ  
んから喜ばれる」という言葉をい  
ただくこともあります。また、平  
成22年に鹿屋市制施行5周年を記  
念して作曲した「合唱とオーケ  
ストラのための《大隅讃歌》」を  
200人以上の人が演奏して、聴  
いたお客様が喜んでくれた時に  
は、無上の喜びを感じました。



【右】クラシック音楽界のレジェンド<sup>たてのいずみ</sup>館野泉さんにも委嘱楽曲を提供。  
【中央】今年8月、鹿児島国際大学で作曲を学ぶ学生さんたちと。  
【左】平成22年に市内で行われた「かのや第九演奏会」での演奏の様子。

information

本市出身の61歳。鹿屋高校を卒業後東京学芸大学に進学し、同大学院修了。花岡学園校歌と輝北小・中学校校歌の作曲も手掛けた。週に1回、帰るときには花岡町の実家の様子を見に帰る。ビールと焼酎が好きで、退職後は野菜作りにも挑戦したいと話す。

学生たちを見てきて、やはり作曲に関しては、技術以上に「自分のオリジナルティをいかに出すか」が大事なことだと思えます。私自身、作曲家という道を選択することに不安を感じた時期もありました。夢を持つ人には「自分が好きなこと」を、諦めないで続けることが大切だと伝えたいです。